

失われた端末を求めて

あらかじめお断りしておくが、以下の文章は波多利朗の独断と偏見に満ちた赤裸々なPDAライフの一コマを述べたもので、実用的な内容は一切含まれていない。したがって、単なる暇潰し程度にお読みいただくと幸いである。

文●波多利朗
text by Toshiro Hata



illustration by Hiroshi Makise

筆者常用のPDAは……

本誌読者のようなマニアックな方であれば、最新型のPDAを片手に、きっと「笑ってお仕事」されていることと思う(古う〜!)。それにしても、近頃のPDAの機能たるや、すごいものがあるね。無線LAN、Bluetooth、デジカメ機能、GPS、まさに何でもありの世界だ。RAMも64MBとか平気で内蔵してるし、動画撮影や再生もできるしで、もうほとんどノートパソコン並みの機能でんこ盛り状態である。

さて、筆者は常日頃どのようなPDAを使っているのかというと、実は常用PDAはなかったりする。一応仕事の関係で松下のLet's noteの一番ちっこいやつにAirH"を突っ込んで持ち歩いたりしているが、いわゆるスケジュール管理等にPDAを使用していない。これは単に、予定は手帳で管理するという習慣が身に付いてしまっているためである。

もう20年以上に渡り、筆者はイギリス製の手帳「Letts」に手書きで予定を書き込んでいる。そのわけは、単

に手で書き込むことが好きだということ、また手帳という原始的な手法であれば電源不要で、開けば即内容を見ることができるということ、そして手で文字を書けばボケ防止にも役に立つ、といったところだ。

ちなみに、ノートパソコンとして松下のLet's noteを使っている理由であるが、これはもう、バッテリーの持続時間が長いということに尽きるであろう。筆者にとって、作業途中のバッテリー切れは、高速運転中のガス欠並の恐怖なのである。残り時間を気にしながらでは、何の作業もできない。というわけで、デザインや機能云々の前に、先ずバッテリーの持続時間を最優先させてしまうのである。とはいえ、最近のノートパソコンはWindows XP搭載で、仕様はみ〜んな金太郎飴のようなことから、機能面で選ぶということはあまり意味がないのかもしれないが……。

カルトなPDAも文化財?

ところで、PDAの話だった。常用PDAがない筆者にとって、それでは

PDAとは一体何なのかと問われれば、これはもうコレクション対象以外の何物でもない。

1989年のATARI Portfolioの発売以来、筆者はいわゆる「謎ば〜機」をメインに収集してきており、その台数はかなりに上る。1993年〜1996年の、いわゆるPC業界が一番面白く熱かった時代、数多くの「謎のバームトップ機」すなわち「謎ば〜機」が登場したが、その頃はもう、怪しい製品のオンパレードだった。ほとんどがDOSベースの「コテコテの」マシンだった上に、台湾・香港・中国製のもの、同一モデルなのに仕様もデザインも微妙に異なるというオマケ付きで、これらのマシンを相手に遊べば、当分の間退屈しないで済んだものである。こういった懐かしい思い出もあり、今でもまだ当時の製品を収集しているというわけだ。

また、将来的には別荘地として名高い「伊豆高原」に、バームトップ機&電卓博物館を設立し、それまで蓄積したコレクションを一気に公開するという崇高な目標も、あるにはある。一方で、現時点では産業廃棄物とあまり変わらない程度の価値しかな

いこれらの製品も、時が過ぎ貯金も尽きて年金も満足にもられないような老後が来る頃には、きっとそれなりの「お宝」になっており、高い値段で売れるであろうという、若干「邪（よこしま）」な気持ちもあったりする。ヽ(´ー`)ノ

そんなわけで、筆者はPDAを実用品としては使っておらず、純粋なコレクションの対象として収集し続けている。この場合、「動体保存」が必須の条件となる。どのようなPDAでも、なるべく当時の環境で動作し、なおかつ日本語化できるものについては、その方法とアプリケーションソフトも含めて保存するという基本方針を原則としているのだ。

大体、このようなマシンの使い方は、ほとんどドキュメント化されておらず、周辺機器に至っては、そんなものが出ていたことすら覚えている人もいない。こうした情報は、何らかの形で記録しておかないと、それこそ永遠に忘れ去られてしまうだろう。カルトなPDAも一応文化財だしね。

主戦場はe-Bay

さて、こういったマイナーでカルトなPDAの入手方法であるが、筆者の場合、志を同じくする柴隠上人 稀瑠冥閻守 (Kerberos) 氏と共に、主にネットオークションをサーベイしつつ、コツコツと集めている。謎ば〜機の場合、日本のオークションサイトに出ることは希であり、また面白い機器もほとんどない。マイナーな製品は、やはり世界的規模のオークションサイト、e-Bayが最もディープだ。英語でのやりとりと海外からの発送というハンディはあるものの、e-Bayオークションは日本とは比べ物にならないくらい豊富で「濃い」ものが多い。

最近では初期Psion端末をメインに収集してきたが、初代オーガナイザーを含め、あのMCシリーズまでもが出品されているとは思わなかった。ただe-Bayの場合、出品者が米国以外の国には売らないという条件が付く場合も多く、そういった時には現地にエージェントでもいればと、悔しい思いをすることも多い。

ところで、オールドPDAをコレクションするにあたり、どのような製品をターゲットにするかを、筆者なりの観点から簡単に記しておこう。

・初期のDOSベースマシン

やはり初代Poqet PCかATARI Portfolioが双璧であろう。Portfolioは『ターミネーター2』でも出ていたしね。初代Poqet PCの液晶品質は激悪なので、今後10年以上の保存に耐えるかどうかは疑問だけど……共に忘却の彼方へと霞みつつある端末なので、是非手元に置いておきたい。

・HP LX関連

95LXあたりであればコレクションしてる人は多いけど、やっぱり狙うのであれば1000CXだろう。それも元箱付きであれば一層萌える。実用機重視の日本のオークションでは、倍速&メモリ増設の200LXがメインで、当たり前すぎてあんまり面白くない。

・いわゆる「謎ば〜」機

一押しはInstant Tech製のPDAシリーズ。それもPTP-20なんか見つけたら、借金してでも買おう！ PTV 30あたりでも、相当玉数が少なくなってきた。コレクション定番としては、TidalwaveのME-386と、その派生機種あたりか？ 激レアを追求するお方は、LexicompのHDD内蔵ゲームトップ、LC-8620なんかがお勧めである。この機種などは、日本にもユ

ーザは案外多いから驚いてしまう。

・Psion関連

一家に一台初代Organiser。やはりPDAの歴史を語るには必須でしょう。なかなか出現しないので、出たら即ゲットだ！ 最近探しているのはMC-200。2年以上探し続けているが、まだ出くわしてない。SienaやWalk aboutは、現在でも比較的多く出ており、待っていればそのうち入手できる。Series 3以降の製品は、この手の廃人ヲタクにとっては、持っているのが「常識」。

・その他

今となってはその存在すら忘れ去られてしまった、GeoFox Oneなんて洗い製品も、見つけたら即ゲットだろう。SHARPのPC3000なんかは、古代バームトップマニアの間ではレアモデルとして有名。手頃なところとしては、NECの初代モバイルギアなんか、今後希少性を高めてゆくものと思われる。

というわけで、オールドPDAの収集もそれなりに楽しいものだ。最新機種をバリバリと使い倒しておられる方も、たまには肩の力を抜いて、このような古い端末をいじってみてはいかがだろうか？ CPUクロックが2桁小さくても、搭載メモリ容量が2桁小さくても、それはそれで味わい深いものである。

さらに、試行錯誤の末に、ショボくれたモノクロCGAの画面上に日本語を表示することに喜びを覚えるようになれば、アナタも立派な廃人の仲間入りだ。常人には理解不能の価値観で、オールドPDA収集という奈落の底に落ちてゆくのも、それもまたひとつの人生と言えるのではないだろうか？ (´ー`)y~